

令和4年度5月教育委員会 会議録

開催日時	令和4年5月27日（金） 15:00～16:45	
開催場所	町民総合会館 集会室	
出席者	委員	白神敬祐教育長、栗坂祐子委員、市橋晃委員、岡本善弘委員
	事務局	猪木浩二学校教育課長、村木美晴生涯学習課長、貝原文雄課長補佐、藤井夏樹主任
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事・報告案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について (2) 令和4年度地域運動部活動推進事業について (3) 第3次早島町子ども読書活動推進計画について (4) いかしの舎指定管理について (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス陽性者判明後の学級閉鎖等の基準の見直しについて ・給食費の負担軽減について ・中央公民館クラブハウスの利用制限について 3 連絡 4 閉会 	
会議資料		
傍聴者		
会議録作成者	藤井夏樹	

会議内容

<p>1 開会</p> <p>教育長あいさつ</p> <p>2 議事・報告案件</p> <p>(1) 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について</p> <p>白神教育長：【資料説明】</p> <p style="padding-left: 40px;">質疑等はあるか。</p> <p>全員：質疑なし。</p>

(2) 令和4年度地域運動部活動推進事業について

白神教育長：中学校の部活動について、子供の数が減っていき、単独の学校で部活動ができないということが、現在も起こりつつあるが、今以上にそのような環境になってくるだろうというのが一つと、教員の働き方改革ということで、土日の部活動の指導が教員の時間外労働の原因の一つになっており、その改善を図るということで、土日の部活動の指導を地域に移行するという動きがある。有識者会議では令和7年までに移行していくという考えである。

しかし、課題はたくさんある。中学校の部活では全中という全国大会があるが、現在、これは中学校単位で参加している。今後は土日の活動は部活動ではなくなるということで、そういった土日の活動をするクラブチームでも参加できるように改定されるのではないかとというふうな話がある。また、土日の指導についても、指導者のボランティアで行われるばかりでなく、謝金が必要となったり、怪我をしたときの補償についても学校の活動ではなくなるため、別途保険の加入が必要になると検討されている。これらのお金をどう負担するのかというと、塾に通う費用と同じように受益者が負担するというのが現在の国の考えのようである。低所得世帯の負担がどうなるのか等課題は多いようだが、提言がまだ出されておらず、細かいことまでは見えていない。

国は令和3年度から各県にモデル校を選定し、事業を実施しているが、岡山県では昨年度、今年度と高梁市と赤磐市と早島町がモデル校となっている。早島町ではすでに町が雇用している部活動指導員等を使って活動をしている。有識者の提言は5月中にやるのではないかとということになっている。文化庁、文化部については7月に提言が出るということになっている。国の方向性もまだ定まっておらず、不確かな情報ばかりになったが、情報提供とさせていただきます。

岡本委員：モデル校ということで1年間やってみてどうだったのか。

白神教育長：すべての部活がモデル校として実施したわけではない。一部の部活動について行ったが、そもそも早島町は他市町村に比べて以前より部活動指導員が多くおり、土日の部活動は教員が必要ないときは基本的に顧問が指導にいかないということになっている。部活の指導をしたい教員は行っているが、必要のないときは負担軽減ができていないのではないかと考える。

猪木課長：早島町は以前から教員の負担軽減のために部活動指導員を配置していたが、これはあくまで部活の中の指導員、補助員であった。しかし、今回の地域移行は部活、学校とは切り離されたものになるということで、そのあたりはど

うなるのか、まだわからない。

栗坂委員：指導員と教員の二人がいて指導の方向性が違う場合があるのではないかと思うが、そういったことはないのか。

白神教育長：現在はあくまで学校の部活動なので学校の方針のもとにやっている。しかし、地域移行すると学校の部活ではなくなるということで、チームによっては今まで以上に活動していこうと、指導が熱心になることもあるかもしれない。また、ないと思うが、コンプライアンスに反した指導が行われるかもしれないが、そうした場合も学校から切り離された存在となるので、そのあたりは心配している。

岡本委員：地域移行について先生はどう感じているのか。部活を指導したいと思っている先生もいると思うが。

白神教育長：確かに部活に熱心な先生もいるように感じている。その場合は教員でも兼職兼業届を出して、地域移行されたあとの活動でも指導を行うような先生も出てくると考えられ、国もそれを想定しているようである。土日の活動が今の学校の部活動のようにスキルアップばかりを目指すのではなく、生徒指導的な面もできるのか、スキルアップばかりを目指さない、そういった団体もできるのかというのはまだわからない。

市橋委員：土日の活動がクラブチームに移行されたら、そのクラブチームに所属すると他に移籍できないように登録制になるのではないか、特に団体競技についてはクラブチームと中学校の部活の両方に選手として所属できるのか、そのあたりは難しいのではないか。クラブチームに所属したら平日もそちらの練習に行くようになるのではないか。土日と平日を切り離すのは難しいのではないかと感じた。

白神教育長：子供が満足できるような活動ができるが一番よい。どのような形が望ましいのか考えていかないといけない。今は国の方針がはっきりしていない。国からの提言が出たら改めて考えていかなければいけない。

(3) 第3次早島町子ども読書活動推進計画について

村木課長：資料をご覧ください。【資料説明】

白神教育長：質疑等はあるか。

全員：質疑なし。

(4) いかしの舎指定管理について

村木課長：資料をご覧ください。【資料説明】

市橋委員：募集をかければ何社か応募はあるのか。

村木課長：前は3社あった。事業者は指定管理料0円で指定管理者となった。しかし

実際に指定管理が始まるとコロナ禍もあり、想定された十分な収益はない。今後は指定管理料だけを過大評価することなく選定をしていきたいと思う。

(5) その他

猪木課長：新型コロナウイルス陽性者判明後の学級閉鎖等の基準の見直しについて、学級閉鎖の基準が今まではクラス内に1人でも出たら最終登校日の翌日から4日間を学級閉鎖にしていた。クラス内の状況に関係なく家庭内の感染等でも学級閉鎖となっていたが、そこを改めた基準にした。学校の活動、学びを止めないということを目的に運用していきたいと考えている。

しかし、先日、中学校で複数名の感染者が出て学級閉鎖が発生し、さらに同一学年で複数のクラスが学級閉鎖となり学年閉鎖となった。本日から学校は再開している。また、タブレットを活用して朝の健康観察や課題の配布、課題の解説の授業等を行った。しばらくはこの形で進めさせてもらえたらと思っている。以上、報告する。

次に、給食費の負担軽減について報告する。現在、原油価格の高騰が起き、いろいろな物価の上昇が起きつつある。給食費は小学校が1食285円、中学校は335円となっている。この金額で、メニューや食材の変更を行い、栄養価を下げないようにやりくりをしながら給食を運用している。そうした中で、この度コロナ対策事業の中に給食費の負担軽減というメニューがあり、それを活用して小学校で1食20円、中学校で1食30円を給食会計へ補助することを検討し、補正予算へ計上している。給食費を安くするというよりは、質の良い給食を提供し続けるということを目的に支援できたらと考えている。以上、報告する。

村木課長：中央公民館クラブハウスの利用制限について報告をさせていただく。中央公民館の敷地内に付属施設のクラブハウスという建物がある。この施設が敷地の端の方にあり、利用者の活動によっては音が漏れることがあり、騒音問題が長い間続いていた。しかし、防音化をする等の抜本的な改善は行えておらず、騒音の問題が起こるたびに利用者への指導等で対応をしていた。コロナ禍で換気の重要性が高まり、またダンス等の新しい団体の利用も増えた中で指導等の徹底もできていなかったこともあり、近隣の住民の方の我慢にも限界があるという状態になった。そこで、敷地の端にあり、民地とも接しているクラブハウスと公民館内の一室の機能を交換し、騒音の問題を根本的に解決できたらということで動いている。来週には利用者に説明会を行いたい。今まで使用していた施設との違いもあることから、利用者の意見も聞きながら抜本的な解決をできるよう進めていきたいと思う。ご理解いただきたい。

白神教育長：その他に御意見等がありますか。

市橋委員：子供の様子を見ていると、学校では子供の学習機会の確保よりもコロナの感染リスクを低減することが優先しているのかなと思った。運動会でしたいことを提案したらコロナに関連してできないということばかりになっている。できない中でも何かできることを前向きに検討してくれる感じが薄いように感じる。

今の中学3年生は1年生からコロナ禍で宿泊研修等は1回もしていない。修学旅行も延期となっており、このままでは大丈夫かな思っている。何かできることがないかとか、そういったことを検討していただけないだろうか。

猪木課長：確かに世の中の空気はコロナ禍から変わりつつあると感じている。学級閉鎖等の基準も県は以前のままだが、このままでは子供の学びが止まってしまうということで、町の基準は教育長や校医等と検討して緩和の方向で変更させていただいた。今後もできることはやっていくように検討していきますし、毎月行われる校園長会を通して学校現場でもそのような指導をしていきたい。

3 連絡

猪木課長：今後の行事について連絡させていただく。次回の教育委員会の予定ですが、県教委行事の関係で調整をさせていただきたい。

4 閉会